

### 論 3 3

#### 佐藤功一による寮建築の研究

—日本女子大学の明桂寮を対象として—

21118049

中野 夏貴

指導者

葉袋 奈美子 准教授

佐藤功一	寮教育	生活改善
女子教育	メタンガス	意匠性

#### 1. はじめに

##### 1-1. 研究の目的と方法

明桂寮は 1927 年に佐藤功一的设计によって日本女子大学内において初めて建てられた RC 造の寮舎である。佐藤は早稲田大学の大隈記念講堂や日比谷公会堂など約 230 作品を手がけているが現存するものは少なく、明桂寮は貴重な佐藤の作品である。現在の明桂寮は、老朽化のため 1993 年に閉寮した後、倉庫として様々な課や学科から使われている。構造は地下 1 階（一部）、地上 3 階建ての L 字型平面を持つ RC 造で、地下には洗濯室や浴室、1 階には採光のとれた厨房や食堂がある<sup>注1)</sup>。

日本女子大学校は、成瀬仁蔵によって 1901 年に日本で最初の女性のための高等普通教育機関として設立された<sup>1)</sup>。家政学部も我が国最初の開設であり、そのカリキュラムは住領域に早くから積極的な位置が与えられ、家政学は自然科学、精神科学、社会科学の混成学という点が特徴である<sup>注2)</sup>。大学校の教育方針は、女子の「人としての教育」「婦人としての教育」「国民としての教育」であり<sup>注2)</sup>、瞑想を教育の基本として重視した<sup>注3)</sup>。教育方法は「自学自習主義」であり、寮生活の運営にも採用された<sup>注3)</sup>。成瀬は寮を「精神修養、勉学の場所であり、同時に生活法の実験研究の場所」と捉え、本校における寮は学生を寄宿させるだけのものだけでなく家庭改善の場として重視されていた<sup>注3)</sup>。以上の背景から設計された明桂寮の寮生活を明らかにすることで、佐藤功一と女子教育の関わりや女子寮の生活様式を知ることができると考えられる。

本研究では明桂寮についての調査を既往研究と古写真を基に実測を行い作品の特徴を明らかにし、寮の意匠と設備、寮生活の様子<sup>3)</sup>の側面から、桜楓会の機関誌「家庭週報」、卒業生のヒアリングに基づき、教育寮であることを踏まえた建築作品としての特徴を明らかにすることを目的とする。

##### 1-2. 既往研究の検討

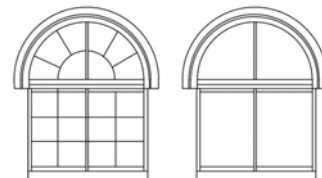
佐藤功一についてこれまで多くの研究がされ、庁舎や公会堂などの建築に対する設計思想や教育に対する姿勢などは取り上げられているが<sup>2)</sup>、女子教育の内容や女子寮の設計については明らかにされていない。また、日本女子大学での明桂寮の価値や当時の生活様式に触れられて

おらず、数ある学寮の中での明桂寮の位置づけや、使い方についてはほとんど触れられていないのが現状である。

#### 2. 明桂寮の意匠について

##### 2-1. 佐藤功一の意匠論

家庭週報、成瀬記念館所蔵の古写真と卒業生の写真からかつての外観と内観について分析した。現状について実測調査を 14 日間に渡って行い、展開図と立面図を作成した（図 1）。



1. 復元南側アーチ窓 2. 現状南側アーチ窓  
図 1 開口部の竣工時と現在の比較

明桂寮の外観は装飾を排除した近代的な印象であるが、軒蛇腹、大アーチ、内部には持ち送りやインテリアの曲線があり、近代的な要素と古典的な要素が折衷していると考えられる。大規模な改築や改修がなかったため、竣工時の様子を残していると言えるが、図 1 に示すように窓の棧や庇が無くなり、壁紙の変更や壁の塗り替え、照明などのインテリアの変化によって竣工時と現在とは印象が異なる。このような細部のデザインこそが明桂寮の特徴であったと考えられる。他に食堂のポーチ部分ではお雛様が飾られ、明るく広い空間が生活に生かされていた。

##### 2-2. 佐藤功一の計画論

本学での講義録には日光や水、便所、煖房・冷房、照明など衛生設備について教えていたことが残されている。食堂の意匠は他の居室に比べ、装飾が凝っていたこと、居室よりも採光がとれた明るい厨房や洗濯室といった家事に関する空間の快適さは、佐藤功一の団らん空間や家事空間の快適性に対する考え方に基づいたのではないかと考えられる。

#### 3. 明桂寮の設備について

本学では竣工時からメタンガスの有用性が語られ、「家庭週報」より経済性を考え、メタンガスの発生装置を導入したと考えられる<sup>注4)</sup>。1925 年に佐藤元三郎氏が佐藤式

メタン瓦斯発生装置を発明し、1927 年には「家庭改善の一法」とされたが、1932 年の時点でメタンガスなどから石油代用燃料を得ることは「工業化の域には進み得ない状態」であった<sup>注5)</sup>。以上より、一般的にはメタンガス発生装置が研究段階であったことと比較し、明桂寮でのメタンガス発生装置の導入は先進的であり、女子生徒の生活の場としての寮に当時の最先端技術を取り入れたことが明桂寮の特色の1つといえる。さらに、佐藤功一も1928年の雑誌への投稿からメタンガスについての言及が見られ着目をしてきた<sup>2,3)</sup>。

#### 4. 寮生活の変遷について

寮での生活の実態について「家庭週報」、「日本女子大学寮の思い出 寄せられた原稿を中心に」、「日本女子大学寮の思い出 座談会を中心に」、明桂寮生が発行していた機関誌「めいけい」とヒアリング調査から、1926年～1935年、1936年～1945年、1946年～1955年、1956年～1967年、1986年～1991年までにおける生活の変化を分析した。各々Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期、Ⅴ期とする。ヒアリング調査は1962年の卒業生1名と1965年の卒業生3名に対面式で行った。ただしⅢ期については資料が見つからず、卒業生からのヒアリング調査も出来なかった。ヒアリング調査から分かった応接室と図書室の場所を加筆した平面図を作成した(図2)。

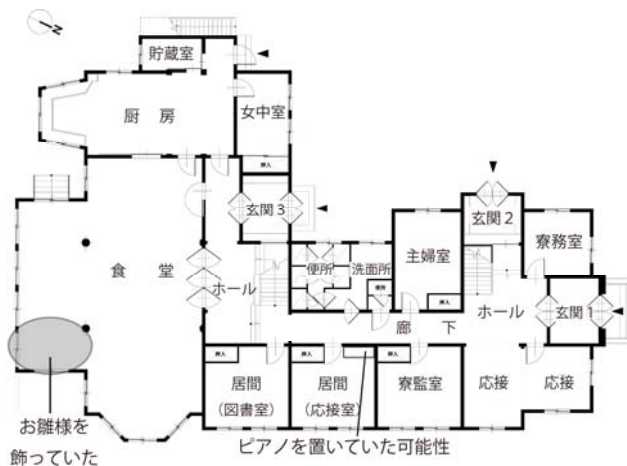


図2 1階平面図(既往研究に筆者が加筆)

資料から、1928年にイギリスの詩人であるラルフ・ホジソン氏、1929年に外国人の記者団や詩聖タゴール、北京師範大学の学生、1931年には中華民国の留学生、1936年に満州国から教育使節団が来寮するなど外国からの訪問者をもてなすことが多かったと分かる。またⅡ期では、この頃の寮生の傾向として洋風寮が少なかったためか外地から来た人が多かった<sup>注6)</sup>。1930年代前半には寮監が寮生を英語に慣れさせるために寮での会話を全て英語にしたことがあった<sup>注7)</sup>。

Ⅰ期やⅡ期では夏季寮が行われ、屋上バルコニーを使っている瞑想会が行われていたが、ヒアリング調査より、Ⅳ期では行われなくなり、屋上は洗濯物を干したり、1人になりたい時に使ったりする場となったと分かった。

設備面に関してはⅠ期ではメタンガス発生装置が使用され、経費の点で使用されていなかったが暖房は地下のボイラー室より各室にパイプを通していた<sup>注6)</sup>が、Ⅳ期ではメタンガス発生装置は使われなくなった。

Ⅰ期からⅤ期を通し、部屋は異学年で構成され、寮を運営する係はあまり変わらず、イベントは年を経る毎にホームカミングデーなどが増えた。また寮生の人数は減少し、居室の構成人数は4人から2～3人へ変わったが異学年構成は変わらず、Ⅳ期では同じ科の上級生が同室に必ず1人はおり、マナーや学校のことを教わることが出来た。他に、一家の主婦として仕切れるようにする目的からお主婦様という制度があったが、1989年から1991年にはなくなった。以上よりⅡ期までは夏季寮や瞑想など成瀬の教育方針が寮に生かされていたが、段々となくなってしまった。一方で劇の舞台として使用するなど空間を生かしたイベントや居室の異学年構成などは受け継がれた。明桂寮は先進的な設備が導入され、瞑想など成瀬仁蔵の教育が実現できる場として寮生活が行われた。

#### 5. まとめ

本研究において明桂寮は佐藤功一の作品の中でも珍しい寮建築の遺構であり、創立者の成瀬仁蔵の女子教育と住教育への関心と、設計者の佐藤功一の女子教育と衛生設備への関心が合わさり具現化された建築であると分かった。本校で初めてのRC造の寮舎であり、生活改善のためにメタンガス発生装置や暖房など先進的な設備が導入され、寮生の家事に関する空間の快適性を考え設計されたことで、他寮とは異なる外国からの来客やホームカミングデー、夏季寮などの多様なイベントが生まれたと考えられる。以上より、明桂寮は日本女子大学の歴史を語る上でも重要な建築であると考えられ、また、成瀬仁蔵の教育思想を理解し、自身の教育への関心と合わせ設計した佐藤功一の作品であると考えられる。

#### 註記

- 注1) 鈴木賢次、水井七菜子：日本女子大学における佐藤功一設計の建築に関する考察—その3—明桂寮-,日本女子大学紀要家政学部,第55号,2008  
 注2) 住居の会：卒業生白書,住まいの図書館出版局,1994,2  
 注3) 日本女子大学：日本女子大学学園事典 創立100年の軌跡,株式会社ドメス出版,2001,12  
 注4) 桜楓会：家庭週報 第1008号,1927  
 注5) 神戸大学：神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ新聞記事文庫, <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/>, 2014,12,17  
 注6) 日本女子大学女子大学教育研究所：日本女子大学寮の思い出 寄せられた原稿を中心に,1994,3  
 注7) 日本女子大学女子大学教育研究所：日本女子大学寮の思い出 座談会を中心に,1994,3

#### 参考文献

- 1) 日本女子大学：日本女子大学学園事典 創立100年の軌跡,株式会社ドメス出版,2001,12  
 2) 米山勇：佐藤功一の「建築-都市」観とその影響に関する史的的研究,早稲田大学学位論文,2005  
 3) 佐藤功一全集発行会：佐藤功一全集第四巻住宅雑纂,土木建築工業新聞社出版部,1942